

勿凝学問 86

年金問題は、もっと頑張ろうよ野党さんたち
めざすは、お父さんためのワイドショー講座連続第1位でしょう

2007年6月26日
慶應義塾大学 商学部
教授 権丈善一

先々週6月16日土曜日夜の「お父さんのためのワイドショー講座」では、年金記録の問題は堂々のトップだった。2位はコムスン。なかなか満足行くものだったけど、先週23日土曜日には、渋谷での天然ガス爆発や苫小牧市のミートホープ社などのあおりをうけて年金問題がベスト10から消えてしまった（ごめん、途中、わずかな間他のことをして全部みていないから記憶が少し曖昧なんだけど、終わった後、あれっ、今週はベスト10に入っていないのかなと思った記憶がある——正確な情報を持つ方ご連絡お願いします¹）。

¹ 正確な情報が届く。

【掲載許可を頂いております】

私は、権丈先生のホームページを毎日拝見しているヘビーユーザー（？）です。先生がホームページで刊行情報を示してくださってすぐに出版社から取り寄せました。さっそく「勿凝学問 52」の「雨が降ろうが槍が降ろうが……」の箇所を、一昨日の講義で使わせていただいたばかりです。

「医療をどうしても変えたいのであれば」の「医療」の箇所を、介護とか障害者福祉とか他の言葉に代えてごらん、と学生に話しておりました。



さて、すでに情報を入手されているかもしれませんが、最新の「勿凝学問 86」の冒頭（およびタイトル）でふれられている、「お父さんのためのワイドショー講座」の6月23日のランキングをお示しします。

番組のこのコーナーの正確な名前を調べようとしてネットで検索しておりましたら、以下のように出てきました（出所は、<http://www.tbs.co.jp/bc/wideshow.html>）。

- 1位 渋谷スパ爆発事故 4時間 32分 52秒
- 2位 偽装肉は社長の指示 2時間 20分 08秒
- 3位 参院選は7月29日投票らしい 1時間 55分 02秒
- 4位 総連本部 売却を巡るナゾ 1時間 51分 47秒
- 5位 栃木・保険金放火事件続報 59分 48秒
- 6位 挙式直前の悲劇 49分 38秒
- 7位 矢部の恋 ナイナイ 45分 01秒
- 8位 ビリーにビリビリ 36分 04秒
- 9位 まだまだ続く不敗神話 34分 59秒
- 10位 山田邦子 乳がん手術報告 34分 26秒

先生のご指摘どおり、年金問題はベスト10位から消えてしまっています。

そのせいなのか、先週一週間は、年金騒動などを題材として、日本の政治、日本のメディア、さらには日本人というものについてテレビなどをながめながら暇つぶししている身としては、少し寂しいものがあった。

そして今朝、朝日新聞に、これまた困った記事があったので、勿凝学問 86 を執筆することにした。

さてさて、次の記事をみてもらいたい。

朝日新聞が 6 月 23 日、24 日に行った世論調査の結果を報告した記事である。ヘッドラインは「年金‘まだ怒り’ 92%」となっているけど、まあ、そういう、記者さんが読者に伝えたいメッセージなど、どうでもいいと言えばどうでもいい。この記事で、いち読者であったわたくしにとってショッキング(?) なことは、図「参院比例区、いま投票するなら・・・」であった。

以上、日頃、先生の御高著や「勿凝学問」などを通じてこれまでにない痛快な勉強を経験させていただいているお礼の気持ちも込めまして。失礼いたします。

感想をひとこと。

「年金問題様

さすがに“ビリーにビリビリ”にだけは、負けてほしくなかった。

今週は、国会での乱闘騒ぎがあるでしょうから絵になりますね。

ベスト 10 入り、心より期待しております。

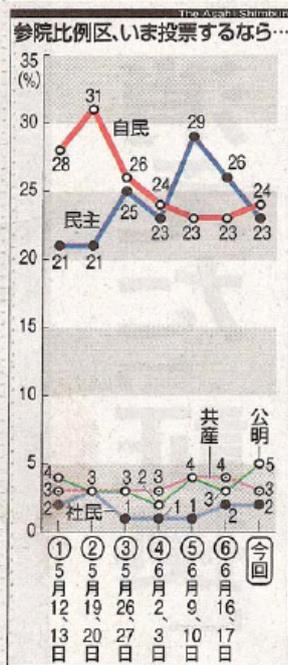
でも、週末じゃ、ベスト 10 入りには間に合わないですよ、週のはじめじゃなきゃ。

分かってやってるんだって・・・(笑)」

年金「まだ怒り」92%

参院比例投票先 自・民が伯仲

本社連続調査



参院選に向けて朝日新聞社が23、24日に実施した第7回連続世論調査（電話）で、年金記録問題に対する国民の怒りが「また続いていると思う人は92%に達した。「収まってきている」は4%。参院選の投票先は民

しかない。与党の国会運営についても「数の力で押し切るのはいくつか」が70%、「多数決のルールに従っているから問題はない」は17%と大多数が批判的だ。一方、参院選の投票先は民

主は23%に減り、自民の24%と伯仲。与党批判の風を民主が受け止めきれない様子が見え、自分の年金に対する不安が「解消していない」は54%で、「解消した」は10%にとどまった。「も

とも不安はない」は31%。今後の年金制度のあり方については「参院選で与野党の争点にしてほしい」という人は66%いた。終盤国会では野党の反対を押し切って与党が法案を成立させ、会期も延

調査方法 全国の有権者を対象に「朝日RDD」方式で電話調査した。対象者の選び方は無作為3段階抽出法。有効回答1095人、回答率64%。連続調査は6月12、13日から毎週末に実施している。

安倍内閣の支持率は31%（前回32%）、不支持率は48%（同51%）。支持率が50%台前半の低迷から抜け出せていないが、一時低下がった公明支持層の支持は前々回から6割前後に戻った。

長された。こうした国会運営について、自民支持層や安倍内閣支持層でも半数が「数の力で押し切るのはいくつか」と答えた。ただし、会期延長で参院選の投票日が延びた影響は「与党に有利」12%、「野党に有利」14%。64%は「どちらでもない」と受け止めている。「いま投票する」としたら「いま投票する」として聞いた比例区の投票先の最近3回の動きをみると、民主は29%↓23%と続けて下がった。自民は23%↓24%で横ばい。

「勿凝学問 80 [この度の泡沫\(うたかた\)の年金騒動の持久力はどのくらい？——ガンバレ民主党、このままでは参院選までもたないよ](#)」で、「溢れるほどの利他心を持つわたくしは、民主党を心配したくなる」と言って民主党に優しくエールを送った身としては、上記記事の「参院比例区、いま投票するなら・・・」は、思いっきり落胆させるものだった。

あろうことか民主党に投票するという人の割合が急落しているのではないかと（涙）。逆に、自民党は右上がり傾向に入っているようだし、自民党と共に年金問題でディフェンスに立たされている公明党は、年金問題が起こる以前の4%を上回った5%になってしまっている。

野党は、なんたる体たらくか！！

せつかく、某新聞とか某新聞とか、

（かなり見境いのないワイドショーまがいの）サポーターもついているのに・・・

もっと、頑張ろうよ、野党さんたち！

ここは、初心に返ろう。

そう、「勿凝学問 79 [世の中には言ってはならない一言というのがある——はしか休講と消えた年金？をめぐる党首討論](#)」で触れたように——

一月ほど前、5月23日の新聞記事

「これ一本で行く」(鳩山民主党幹事長)

反応のよさに新聞広告の掲載も検討。「世論の沸騰まであと一歩」(民主党国体関係者)

「参院選につながる戦いができるのは、これしかない。

三振か逆転満塁ホームランか、大勝負だ」(民主党幹部)

『朝日新聞』2007年5月23日朝刊

——の精神を思いだそう！！

「反応のよさに新聞広告の掲載も検討」にあるように、世論は、お金を使ってつくるものでしょうね、やっぱり。

民主党に投票しようと思う人を伸ばせないなんて、お金が足りないのかな？

1990年前後の麻疹ワクチンの副作用への過剰反応(おかげで麻疹休講になったけど)、2000年前後の医療事故、BSEへの過剰反応などなどにみられるように、この国の住民(それともメディア?)は、リスクに対して、冷静な対応をするのを苦手とするようで、ちょっとしたリスクが露見すると、国民全員が被害者にあつたように蜂の巣をつついたような状態となる。この日本人の愛すべき資質をもっとうまく利用しましょうよ。

ミミズだってオケラだって
アメンボだって
みんなみんな消えているんだ
被害者なんだあ

「年金手帳を太陽に♪」より

と、キャンペーンをはれば、あと1カ月くらいは何とかなるでしょう。

足りないんなら、寄付しましょうか？

それとまたまたあろうことか、今日の夕刊には、与党の参院選公約の筆頭に、年金カードの導入や、ねんきん定期便の完全実施などが掲げられてしまってる。

共通公約の主なポイント

年 金

- いつでも自分の年金情報を知ることができるカードシステムを2011年にも導入
- 「ねんきん定期便」の完全実施
- 社保庁を廃止・解体し、6分割

公務員制度改革

- 国家公務員制度改革基本法を制定
- 労組のぬるま湯体質を一掃

環 境

- 2050年までに世界全体の温暖化ガス排出量を半減

憲 法

- 衆参両院に設置する憲法審査会の議論を深め、2010年以降の国会を視野に入れ、憲法に関する幅広い国民的な議論を深めていく

『日経夕刊』2007年6月26日

年金カードの働きやねんきん定期便の意味を国民がちゃんと理解してしまったら、野党は年金問題で太刀打ちできなくなりますよ——しかも、「勿凝学問 81 [年金教育をタダでやってくれている有り難きメディアたち——および、「政争の具と政治リスク」再考](#)」で触れているように、年金カードやねんきん定期便などが一般化してしまうと国民が年金に関するちゃんとした知識をもつようになるから、民主党十八番の年金改革案は再チャレンジのチャンスを完全に喪うおそれさえある。だってこれまで、(年金に関して国民は本当のところは無関心で)年金制度についての知識を持っていなかったから、野党は年金を政争の具にすることができたんだから(「」)ボソ...

与党に、いろいろと先手を打たれてしまっているから、なかなか辛い立場にあることは分かる分かる。だからといって、「それは、僕が最初に言ったんだからあ」などと、そんなお子ちゃまの言うようなことで勝負をすると、国民は呆れてしまいますよ。たとえば研究

者の世界では、知的所有権というのは、知的生産世界を萎縮させずに活性化させるために守ってあげないといけない重要な権利ですけど、政治の世界は、A 党の政策アイデアを B 党が着服したとしても、A 党が次なる政策アイデアを着想するインセンティブが減じるものではないでしょう。となれば、B 党の剽窃(?)は、社会的な政策アイデア生産量を減らすことを帰結しそうにない。よって、政策アイデアのユーザーである有権者にとって、政党間で政策アイデアの盗み盗まれがどんなになされようとも、まったく悪いものではない。むしろ、野党が出す良い政策があるとすれば、それを与党が吸収して実行するのは、有権者にとって望ましいことでさえある——それが、政策アイデア市場での競争のメリットだろうと。

となれば、新聞紙上で、

問題に火を付けた民主党は、国民の年金への関心を高める意味でいい仕事をしたとは思ふ。しかし、政府・与党が先に最善の一手を打ったため、「1 年間で年金記録照合は不可能だ」ぐらいしか言えなくなった。

『産経新聞』2007 年 6 月 8 日

というコメントをした人物からすれば、ワイドショー頼みの野党は（最近夜もワイドショーが放映されているようだけど）、与党が打ち出してくる政策ベクトルが内在する方向性では対応しきれない出来事、すなわち角度が異なるなにか新しい出来事でも起こってくれないと、広報費用がいくらあっても足りない状況になる——という読みになりそうなんだよね。与党が打ち出している政策ベクトルは、それが内在するスカラーの大小とは関係なく有効に機能する政策ベクトルのようだから、今後、これまでと同じような問題が量的に増えることがあったとしても、対応できそうなんですよね、野党にとって困ったことには——はい、ちょっと難しい言葉を使ってごめんなさい。ベクトルだとかスカラーだとかの使い方については、「勿凝学問 83 [予告編：年金報道の見分け方再考](#)」をご笑覧くださいませ。

ところで、今週、メディア関係の友だちに送ったメール。

- > 民主党が、与党の出す年金時効撤廃特例法案の成立を邪魔するってのは、
- > かなりの喜劇なんだけど、その喜劇をみることになるんでしょうね、僕らは近々・・・

最後に、先日、前民主党議員・精神科医の水島広子氏のインタビュー記事が『日経新聞』（2007 年 6 月 24 日朝刊）に載っていた。そこに、「相手を責め、自分を正当化し、かえって対立する政治の構造も痛感」とあったのをみて、思わず、記憶に留めてしまった。

明日の講義の雑談でも考えはじめたら、こんな文章が出来上がってしまった

なにをやっているのやら（涙）

最初の雑談で話すから、これを印刷して、講義に出席するように、よろしく
まあ、読めば、わかるよな